

ミュレンから望んだ3峰。右手よりユングフラウ、メンヒ、アイガーと連なっている。

フォト・レポート

スイス・アルプスの 三名山に酔う

アイガー、メンヒ、ユングフラウの壮大なる自然美

スイス中部アルプスのベルナー・オーバーラント地方は、ヨーロッパで最も有名なリゾートである。4000m級の山並みを眼前に楽しんだり、登山電車とケーブルカーで山頂近くまで簡単に辿り着けたりできる。そして、冬場こそその雄大で厳しくも美しい自然を堪能するのに相応しいのだ。

撮影・文 中塚 裕



メンヒは、オーバーラント3山の中央に位置し、比較的なだらかな稜線を持つため、アルプス初心者に登るのに適している。

ミューレンは標高1650m、人口350人の小さな村。自動車の乗り入れが禁止されている。人々は自然との触れ合いを楽しむ。



ミューレンは素朴でスイスらしい雰囲気に溢れている。何世代かにわたって使われていたような木の櫓を見つけた。

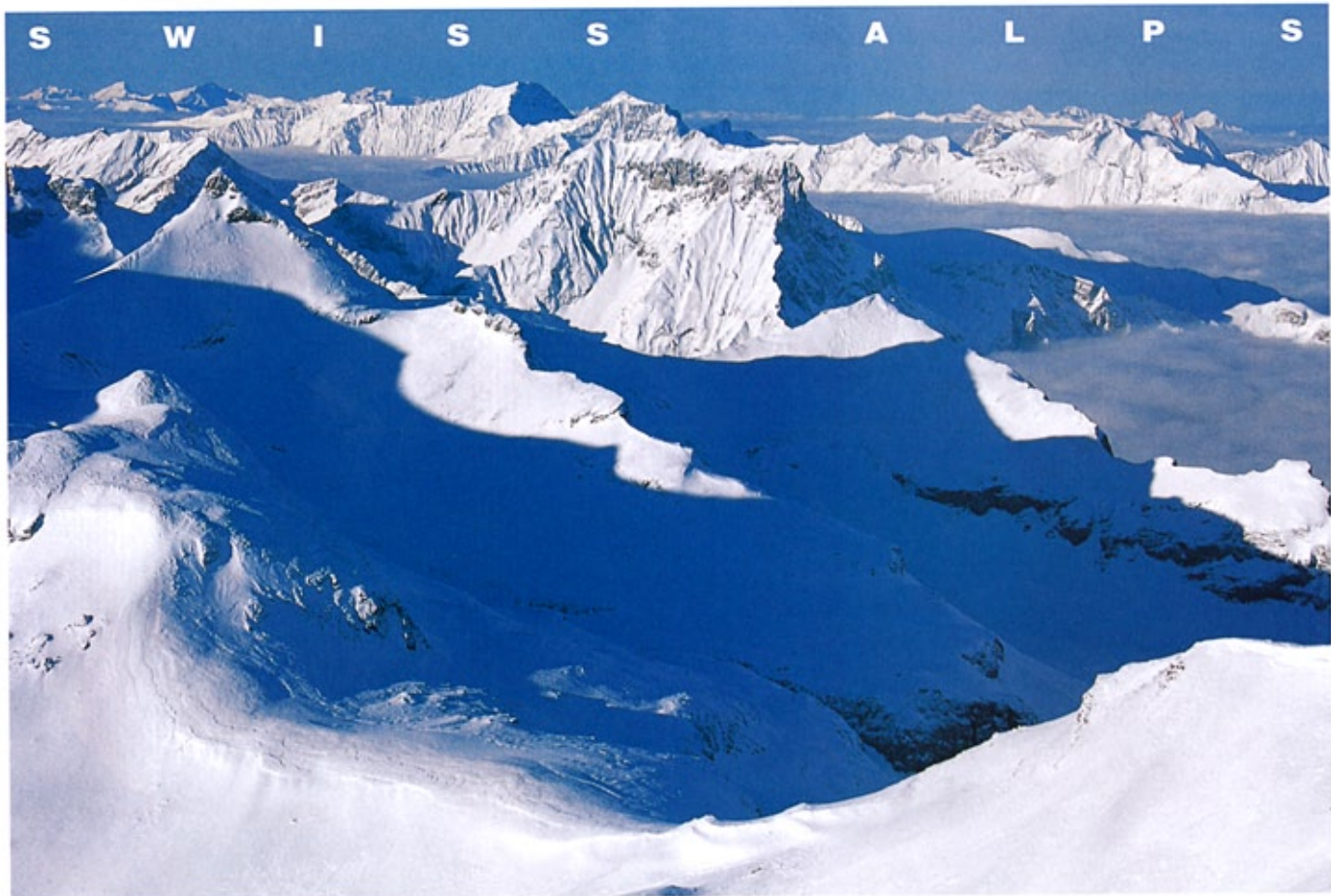


ここ一〇年ほど度々スイスを訪れてはさまざまな写真を撮ってきたが、アルプスの山の写真は久しぶりである。中部アルプスのベルナー・オーバーラント地方には、アイガー、メンヒ、ユングフラウという三つの名山が連なっている。いずれも四〇〇〇前後の高峰である。

今やヨーロッパで最も有名なリゾートに発展した。自力で歩いて登るわけではないが、ユングフラウヨッホ(三四七五)では、頭痛と息切れのする軽い高山病にかかった。一緒だった日本人観光客の中には失神した女性もいた。旅行者の多くはインターラーケンから登山電車に乗ってグリンデルバルトに向かうのだが、今回は反対側のミューレンに向かった。アイガー、メンヒ、ユングフラウの三山を見渡せる絶景の村と聞いたからである。



日本でもお馴染みのアイガー。頂上は北と南に切れ落ち、鋭く尖っている。



ベルナー・オーバーラント最高の展望を誇るシルトホルンからアルプスの山並みを望む。「女王陛下の007」のロケ地として有名。



ミューレンはアルペン・スキーレース発祥地として知られる。最初にスラローム競技会が開かれたのは1920年のこと。現在でも、スキーやカーリングが盛んで、アルプスを背にしてたくさんの方が楽しんでいた。

ミューレンは小さな村だ。両側にホテルや商店が立ち並びメインストリートでさえ、一〇分も歩くと尽きてしまう。ホテルも家族経営のペンション風のものが多い。自動車の乗り入れも禁止されていて、静かで落ち着いた雰囲気を楽しめる。

スイスにはこうした素朴で、過度な近代化を受けつけない村がたくさんある。そこでの暮らしぶりは、大量消費とは無縁で、それでいて伸びやかな印象を与えてくれる。

思えば一〇年ほど前、二〇年ぶりに訪れたスイスで最初に感じたのは、そうした質実さだった。パブルの最盛期で「銀座の土地一坪が何千万円もするんだ」と話しては、スイス人たちに呆れられてばかりいた。今、不況一色の日本から来て、変わらないスイスの姿に改めて感銘を受けた。もしかしたら、そうしたスイス人気質は何千年と変わることのない圧倒的な厳しい自然に囲まれて暮らしている中で培われたものではないだろうか。

ミューレンのホテルアイガーのテラスに出てみると、ユングフラウの山肌が目の前にまさに壁のように屹立していた。そこには、これまでインターラーケンなどで目にしてきた優しい表情はなく、恐ろしいほどの男性的な山の顔があった。新しいアルプスを見つけた気分になってカメラを覗くと、メンヒ、アイガーへと連なる超広角の世界が広がっていた。



上/ベルナー・オーバーラント地方は、登山電車やロープウェイが整備されている。電車から見る樹氷などの景色も絶品。下/日本人観光客も多く訪れるグリンデルバルト。冬は雪に閉ざされ静かな佇まいを見せている。まるで童话の世界のようだ。

